


救助資機材取扱い要領 可搬ウインチ



坂戸・鶴ヶ島消防組合

可搬ウインチ

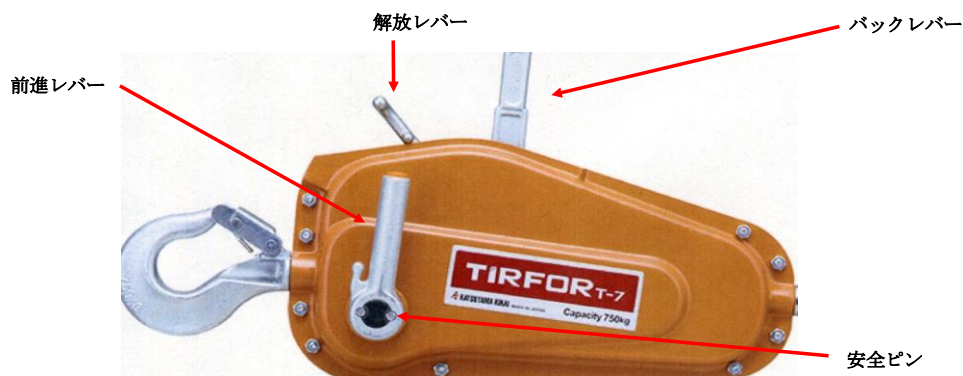
動作		指揮者	操作員
1	訓練開始 指揮者の号令により操作を開始する。	 「可搬ウインチ取扱い要領」 「操作始め」 ※可能な限り操作員に指示を出す。「」内は一例であり、相手に伝われば良いものとする。	「よし」 ※可能な限り呼称しながら活動を行う。「」内は一例であり、相手に伝われば良いものとする。
2	資機材搬送 可搬ウインチを設定位置まで搬送する。	「資機材搬送」 指揮者は全体が見える位置まで移動する。	「よし」 2名で資機材搬送位置に搬送し 「資機材搬送よし」
3	状況確認 各支点及び牽引物へ向かう。	 「各部状況確認」 支点の強度確認及び牽引物、可搬ウインチが正常かを確認。	1番員「可搬ウインチよし」 2番員「後方支点よし」 確認後、報告する。
4	設定開始 各番員が決められた設定を行う。	 車両の場合、引く分の位置に車輪止めを設定する。	「よし」 1番員は可搬ウインチの設定（ロックを解除し、牽引バーを伸ばす。） 2番員は後方支点の作成及びワイヤーの延長（玉掛けされたスリングをフックにかける。）
5	最終点検 各番員が最終点検を実施する。	「各部最終点検実施」	1番員「ロックよし」 2番員「後方支点よし」
6	牽引開始	 牽引時は、絶対にライン上で操作を行わないこと。	「よし」 1番員はウインチ操作を行い、2番員は後方支点の確認をする。 各番員随時状況を呼称する。

動作		指揮者	操作員
7	張りの確認 牽引中、力が加わる際(ワイヤーの長さの90%程度の張り)に再度確認する。	「牽引やめ」 手を横に伸ばし呼称する。 「後方支点よし」の報告を受けた後 「再度、牽引開始」	「よし」 1番員はウインチ操作の停止、2番員は後方支点の確認をする。 後方支点確認後 「後方支点よし」 「再度、牽引開始」で牽引を再開する。
8	牽引終了	「牽引やめ」 手を横に伸ばし呼称する。	「よし」 1番員はウインチ操作をやめ、牽引バーを外す。
7	資機材撤収	「おさめ」	「よし」 1番員は解除レバーで展張を緩める。 2番員はワイヤーの張りが完全に解除されたのを確認後、マルチスリングを解除する。ワイヤーの巻取りも実施。 全てを解除した後、資機材を元の位置に搬送し、集合線へ移動する。
8	訓練終了	指揮者は服装を整理する。 操作員が気をつけの姿勢に戻った後 「わかれ」	隊員は開始位置に戻り服装を整理する。服装整理後、気をつけの姿勢で待機する。 指揮者の「わかれ」に対し敬礼を行い終了する。

注意事項

1. 牽引時、必ずワイヤーロープのラインに誰も入れないこと。(支点や牽引物の玉掛けが崩壊した場合、支点と牽引物が強い力によって引き寄せられるため、危険が伴う。)
2. 支点作成時、必ず強固なものを選び、強度確認を怠らないこと。また、玉掛け角度にも気をつけること。(別紙参照)
3. 牽引時は支点、牽引物に必ず隊員を配置し、常に異常がないか確認をすること。

各部名称



形式	T-7
最大能力	750kg
自重	7kg
揚程	ワイヤーロープの長さ
専用ワイヤーロープ径	φ8.3mm(最大径)
レバー1往復での動き	60mm
テコ比	30:1
ワイヤーロープ破断強度	44.1kN
安全ピンの耐力	約1500kg

※最大能力とは、ワイヤーロープにかかる張力を意味する。

※テコ比30:1とは、パイプハンドル取手部の操作力が、張力の30:1で操作ができるという意味。